

平成23年度 第2回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催
～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、技術が育成し、社会に還元されることを目的に『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を開催いたします。

記

「平成23年度 第2回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成23年11月25日（金）15：00～17：00

場所：サンポート合同庁舎 7階 702会議室

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（1件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 新技術の事前審査（1件）

工事で使用する前に使用にあたって問題がないか事前に確認します。

3. 『四国テーマ設定技術』

平成23年7月15日迄、募集していた『平成23年度 四国テーマ設定技術』について、技術内容の審査・選定を行います。

平成23年度四国テーマ設定技術 災害対応技術 構造物保全技術
維持管理技術

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮り(平成23年度第1回新技術活用評価委員会の報告まで)のみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成23年11月22日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

施工企画課長補佐

小林 幸雄 (087-851-8061 内線 3451)

古澤 弘行 (087-851-8061 内線 3453)

～審議技術の概要～

< 事後評価 >

『アーボ箱形パイプ(CB-980036-A)』

産業廃棄物を出さない環境負荷低減のバイコン製法を採用した、街渠側溝や横断暗渠に使用する高強度コンクリート2次製品である。

< 事前審査 >

『TB工法(タッチボンド工法)(KK-070004-A)』

連続性と水密性を確保しつつ、レベル2地震動に対応可能な水路や通路等の管路を構築できる耐震継手工法を導入したプレキャストボックスカルバートである。

※ 技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

平成23年度 第2回四国地方整備局新技術活用評価委員会

議事次第（案）

日時：平成23年11月25日（金）15:00～17:00

場所：高松サンポート合同庁舎 702会議室

・開会

・挨拶（委員長）

・議事

1．平成23年度第1回新技術活用評価委員会の報告等

1 - 1 平成23年度第1回新技術活用評価委員会の報告等

2．新技術の事後評価

2 - 1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

2 - 2 アーボ箱形パイプ

3．新技術の事前審査

3 - 1 第三者機関が実施した技術審査情報の活用

3 - 2 T B工法(タッチボンド工法)

4．平成23年度四国テーマ設定技術について

4 - 1 災害発生時の即日性調査の選定について

4 - 2 管理施設の維持更新判定技術の選定について

4 - 3 路面下空洞探査技術の選定について

4 - 4 作業の軽減とコスト縮減が可能な機械・資材技術の選定について

4 - 5 既設防護施設を活用した耐久性・安定性向上技術の選定について

4 - 6 橋梁の部材の腐食・劣化進行を抑制する予防的保全技術の選定について

4 - 7 災害発生時の即日性調査 試行計画概要（案）について

5．活用促進技術・推奨技術について

5 - 1 「活用促進技術」の指定基準（案）について

5 - 2 「推奨技術」の推薦基準(案)について

・閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS(New Technology Information System, 新技術情報提供システム)を用いて新技術の活用を推進してきたところではありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略:順不同)

(大 学 5名)

松島 学 香川大学工学部 教授(構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)

吉田 秀典 香川大学工学部 教授(構造工学、地震工学、維持管理工学)

山口 正隆 愛媛大学工学部 名誉教授(海岸工学、自然災害科学)

高木 方隆 高知工科大学工学部 教授(国土情報処理工学)

渡邊 健 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授

(コンクリート工学)

(産 業 界 3名)

(社)日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長

(社)建設コンサルタンツ協会四国支部 企画委員会 委員長

(社)日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

(独)土木研究所 材料資源研究グループ長

(独)港湾空港技術研究所 研究評価官

(整 備 局 8名)

四国地方整備局 企画部長 外7名